

2016.3.8近畿大学

大門1

問題(A) 英文和訳

ロジャース先生：カトリーナ、学校の科学祭のポスターはどこにあるんだ？

カトリーナ：すみません、ロジャース先生。私たちはポスターではなく、プレゼンテーションの準備に取り組んでいました。

ロジャース先生：何よりも先にポスターが必要だと言ったとき、非常に明快に伝えたつもりだったのだが。

カトリーナ：はい、ですが私のチームはプレゼンテーションに最も注力してきました。

ロジャース先生：それは君たちのチームの希望かもしれないが、君たちはスケジュールも確認しなければならない。

カトリーナ：スケジュールは入念に確認しました。このスケジュール表のまさにここに、ポスターの期限は2週間後だと書いてあります。

ロジャース先生：それは確かだが、印刷に回す前に、一枚一枚のポスターに誤りがないかチェックしなければならないんだ。

カトリーナ：ああ、なるほど。ええと、一応お伝えしておきますが、プレゼンテーションはほぼ完成しています。

ロジャース先生：それは重畳(ちょうじょう)だが、まずはポスターを先に仕上げてくれ。

カトリーナ：今週の後半には(ポスターを)先生に提出できると思います。

ロジャース先生：素晴らしい。それなら、印刷所に送る前にチェックする十分な時間が確保できるな。

翻訳のポイント

- "instead of...": 「～の代わりに」「～ではなく」と訳し、生徒が優先順位を違えていた状況を表現している。
- "I thought I was very clear": 直訳すると「私は自分が非常に明快であったと思った」だが、文脈上「(こちらは)はっきり言ったつもりだったが(君には伝わっていなかったのか?)」というニュアンスになる。
- "due for...": 期限を表す表現である。

解答

- 1. ア (I needed the posters before anything else)
- 2. ア (I checked it carefully)
- 3. ア (I believe we can get them to you later this week)

解説

- 空所 1: 直前で先生が「ポスターの代わりにプレゼンを優先した」という生徒に対し、「～と言ったとき、はっきり伝えたつもりだったが」と述べている。文脈から「(プレゼンより先に)ポスターが必要だ」と伝えていたはず、という内容が入るのが自然である。よってアが正解。
- 空所 2: 空所の後で、生徒が「スケジュール表には、ポスターの期限は2週間後だと書いてある」と根拠を述べている。したがって、空所には「スケジュールはちゃんと確認しました」という内容のアが入る。
- 空所 3: 先生が「印刷前にミスがないかチェックする必要があるから、先にポスターを仕上げなさい」と指示し、空所の後の先生の台詞が「よかったです。それなら印刷に回す前にチェックする時間が取れる」と肯定的な反応になっている。そのため、空所には「今週中にはポスターを提出できると思う」という前向きな約束であるアが適切。

問題(B) 英文和訳

ハリー： おや、まあ。君か、ウィリアム？

ウィリアム： ハリー！ 久しぶりだね。どれくらいぶりだろ？

ハリー： 4年ぶりくらいかな？ 先週、中国から戻ったばかりなんだ。赤ちゃんが生まれたと聞いたよ。

ウィリアム： ああ、8ヶ月ほど前だ。祖母の名にちなんで、彼女をシャーロットと名付けたんだ。

ハリー： それは素敵だ。赤ん坊のことはよく知らないんだが、もう初めての言葉はしゃべったかい？

ウィリアム： いや、まさか。そんなことができるようになるには、まだしばらくかかるよ。

ハリー： それじゃあ、彼女はもう一人で歩けるのかい？

ウィリアム： いや、今はちょうど一人で立ち上がりれるようになったところだ。

ハリー： すぐに歩けるようになるさ。子供がいるというのはいいものだろ？

ウィリアム： ああ。でも、時々泣くこともあるよ。彼女(娘)に会いに来ないか？

ハリー： うーん、来週また中国に戻る予定で、しばらくは帰ってこないんだ。

ウィリアム： それなら、今週の土曜日はどうだい？

翻訳のポイント

- "Long time no see!": 「久しぶり！」という定番の挨拶である。
- "name A after B": 「BにちなんでAを命名する」という重要表現である。
- "before long": 「まもなく」「すぐに」という意味である。
- "In that case": 「それなら」「その場合」と訳し、直前の「来週にはいなくなる」という状況を受けた提案に繋がっている。

問題(B) の解答と解説

久しぶりに再会した友人同士(HarryとWilliam)の、赤ん坊に関する会話である。

解答

- 4. ウ (We named her Charlotte after her grandmother)
- 5. エ (Well, can she walk by herself yet?)
- 6. ウ (I'm returning to China next week and won't be back for a while)

解説

- 空所 4: 前後で赤ん坊が生まれた時期(8ヶ月前)の話をしている。空所の直後のHarryの反応が "That's sweet."(それは素敵だね)であることから、赤ん坊にまつわる心温まるエピソードや情報が適切。祖母の名前を取って命名したというウが最も自然である。
- 空所 5: 空所の直前で、赤ん坊がまだ言葉を話さないという話をしている。空所の直後の返答が "No, she's just now standing up by herself."(いいえ、やっと一人で立てるようになったところだ)と、身体的発達について述べている。そのため、空所では「もう一人で歩けるのか？」と尋ねているエが正解。
- 空所 6: Williamが「(泣くこともあるけど)会いに来ないか？」と誘い、空所の後の返答で「それなら、今週の土曜日はどう？」と具体的な日程を提案している。Harryは冒頭で「先週中国から戻ったばかりだ」と言っているが、ウの「来週また中国に戻ってしばらく帰ってこない」という理由があれば、「(戻る前の)今週土曜日はどうか」という提案に継続する。

大門2

全文和訳

コーヒーを飲むと、私たちの覚醒度は高まるのだろうか。コーヒーに含まれるカフェインの存在は、刺激物としての永続的な** (7:評判) をその飲料に与えてきた。しかし、2010年に発表された研究は、私たちは皆、思い違いをしていたのかもしれないということを (8:示唆している) **。

その実験では、コーヒーを飲む習慣のある人とない人の両方を含む被験者全員が、16時間カフェインを** (9:避ける) よう求められた。その後、彼らにはカフェインのカプセルかプラセボ(偽薬)のいずれかが与えられ、さらにその後、少し多めの投与量か、あるいは別のプラセボが与えられた。それから被験者は、自身の感情の (10:状態) ** と覚醒度を測定するための性格テストを受けた。

結果は、カフェインはいずれのグループの覚醒度も** (11:向上させ) ** なかったことを示していた。ただし、コーヒーを飲まない習慣の人たちの一部は、頭痛を報告し、不安の増大を示した。一方で、プラセボを与えられたコーヒーをよく飲む人々は、覚醒レベルが低下し、同様に頭痛を報告した。

これらの結果は、コーヒーが私たちの覚醒度を高めるのではなく、コーヒーの** (12:欠乏) ** がコーヒーを飲む人の覚醒度を低下させるということを示しているようであった。コーヒーを飲む人の朝の一杯は、一晩の間に蓄積されたカフェインの離脱症状を和らげるのに役立っているに過ぎない。カフェインの効果は、これまで考えられてきたよりも複雑なようである。

解答と解説

選択肢:

ア. avoid(避ける) / イ. cures(治す) / ウ. denies(否定する) / エ. improve(向上させる) / オ. lack(不足、欠乏) / カ. reputation(評判) / キ. state(状態) / ク. suggests(示唆する)

(7) 解答: カ (reputation)

・解説: 文脈は「コーヒーが刺激物として長く持続する()を得てきた」という内容である。名詞の reputation(評判) を入れることで、「刺激物としての定評」という意味になり、文意が通る。

(8) 解答: ク (suggests)

・解説: 主語が「2010年に発表された研究 (research)」であり、that節の内容(私たちは間違っていたかもしれない)を導く動詞が必要である。研究結果などが「～ということを示唆する」と言う場合、suggests が最も適している。

(9) 解答: ア (avoid)

・解説: 実験の条件として、カフェインの影響を測定するために、事前に「カフェインを()する」よう求めたという文脈である。16時間摂取を控えるという意味の avoid が適切である。

(10) 解答: キ (state)

- 解説: "emotional (state)" で「感情の状態(気分)」という定型的な表現になる。覚醒度 (alertness) と並べて測定する対象として自然である。

(11) 解答: イ (improve)

- 解説: 直前の "did not" に続く動詞の原形が必要。実験結果が「覚醒度を()させなかった」という内容であるため、プラスの変化を表す improve(向上させる) が入る。

(12) 解答: オ (lack)

- 解説: 文脈は、コーヒーが覚醒度を上げるのではなく、コーヒーが「()すること」で覚醒度が下がるのだ、という対比構造になっている。したがって、不足や欠乏を意味する名詞 lack が正解となる。

大門3

解答一覧

1. ア (seem)
2. ウ (is closing)
3. ウ (What)
4. ウ (much)
5. エ (to give)
6. ウ (is)
7. ア (among)
8. エ (when)

解説

13. 正解: ア (seem)

【解説】「make + 目的語(O) + 補語(C)」の第5文型。ここでは「友情(friendship)を、より親密なもののように見えさせる(seem closer)」という構造になる。makeが使役動詞として機能し、Cの位置には動詞の原形が来る。

14. 正解: ウ (is closing)

【解説】現在進行形(is closing)は、確定した近い未来の予定を表すことができる。「今日の午後4時に店を閉めることになっている」という確定したスケジュールを指すため、ウが最も適切。

15. 正解: ウ (What)

【解説】文全体の構造は、「What tourists admire about the country(観光客がその国について称賛すること)」が、動詞thinkの目的語として文頭に出た形である。「地元の人々は、(観光客がその国について称賛することを)非常に価値があると考えている」という意味。Whatは先行詞を含む関係代名詞。

16. 正解: ウ (much)

【解説】「As much as ~」あるいは「Much as ~」で「~だけれども(Although)」という譲歩の意味を表す。ここでは「彼女のことは大好きだが、経営手法には同意できない」という文脈になる。

17. 正解: エ (to give)

【解説】「remind + 人 + to do」で「人に～することを思い出させる(忘れないように言う)」という語法。「あなたが行く前に、私があなたに鍵を渡すことを(忘れないように)思い出させてください」という意味になる。

18. 正解: ウ (is)

【解説】that節内の主語は「using new words(新しい単語を使うこと)」という動名詞句である。動名詞句が主語になる場合、単数として扱うため、動詞はisとなる。

19. 正解: ア (among)

【解説】「～の中に、～の間で」を意味する前置詞。3人(3つ)以上の集団を表す語(the first Europeans)が続くため、betweenではなくamongを用いる。「アメリカにやってきた最初のヨーロッパ人の中に、女性はほとんどいなかった」という意味。

20. 正解: エ (when)

【解説】ここでwhenは「～であるのに、～という状況を考えると(considering that)」といった理由や状況を表す接続詞として機能している。「これほど非協力的であったのに、誰かが助けてくれると期待してはいけない」という文脈を完成させる。

大門4

解答一覧

1. ウ (aside)
2. エ (splendid)
3. エ (transfer)
4. ウ (proportion)
5. ウ (resident)

解説

25. 解答: ウ (aside)

- (a) 定義: "out of the way; away from oneself" (邪魔にならない場所へ、自分から離して)
- (b) 文脈: 「夕食を終えると、ポールは皿を()へやった。」
- 解説: move aside で「(皿などを)脇にどける、傍らに置く」という表現になる。
- ア. across(横切って)
- イ. apart(離れて)
- エ. onward(先へ)

26. 解答: エ (splendid)

- (a) 定義: "brilliant or fine in appearance" (外観が素晴らしい、見事な)
- (b) 文脈: 「スーは崖の上から、海岸と夕日の()な景色を眺めた。」
- 解説: 景色が素晴らしいことを表す splendid (素晴らしい、豪華な、きらびやかな) が最も適している。
- ア. broad(広い)
- イ. competent(有能な)
- ウ. generous(寛大な)

27. 解答: エ (transfer)

- (a) 定義: "to move something from one place to another" (何かのある場所から別の場所へ移動させる)
- (b) 文脈: 「私たちは、乗客の荷物を船から海岸まで小舟で()。」

- 解説: 荷物や人を移動・運送させる意味を持つ transfer が正解である。

- ア. exclude(除外する)
- イ. locate(位置を特定する、置く)
- ウ. merge(合併する、合流する)

28. 解答: ウ (proportion)

- (a) 定義: "a part considered in relation to the whole" (全体に対する割合として考えられる部分)
- (b) 文脈: 「海洋におけるプラスチック廃棄物の()は急速に増大している。」
- 解説: 全体の中での「比率、割合」を意味する proportion が合致する。

- ア. connection(接続、関係)
- イ. fragment(破片、断片)
- エ. supplement(補充、付録)

29. 解答: ウ (resident)

- (a) 定義: "a person who lives somewhere on a long-term basis" (ある場所に長期的に住んでいる人)
- (b) 文脈: 「ソフィアは30年以上、神戸の()である。」
- 解説: 居住者、住民を意味する resident が正解である。
- ア. correspondent(通信員、特派員)
- イ. participant(参加者)
- エ. respondent(回答者)

大門5

解答一覧

1. ウ (aside)
2. エ (splendid)
3. エ (transfer)
4. ウ (proportion)
5. ウ (resident)

解説

25. 解答: ウ (aside)

- (a) 定義: "out of the way; away from oneself" (邪魔にならない場所へ、自分から離して)
- (b) 文脈: 「夕食を終えると、ポールは皿を()へやった。」
- 解説: move aside で「(皿などを)脇にどける、傍らに置く」という表現になる。
- ア. across(横切って)
- イ. apart(離れて)
- エ. onward(先へ)

26. 解答: エ (splendid)

- (a) 定義: "brilliant or fine in appearance" (外観が素晴らしい、見事な)
- (b) 文脈: 「スーは崖の上から、海岸と夕日の()な景色を眺めた。」
- 解説: 景色が素晴らしいことを表す splendid(素晴らしい、豪華な、きらびやかな)が最も適している。
- ア. broad(広い)
- イ. competent(有能な)
- ウ. generous(寛大な)

27. 解答: エ (transfer)

- (a) 定義: "to move something from one place to another" (何かのある場所から別の場所へ移動させる)
- (b) 文脈: 「私たちは、乗客の荷物を船から海岸まで小舟で()。」

- 解説: 荷物や人を移動・運送させる意味を持つ transfer が正解である。

- ア. exclude(除外する)
- イ. locate(位置を特定する、置く)
- ウ. merge(合併する、合流する)

28. 解答: ウ (proportion)

- (a) 定義: "a part considered in relation to the whole" (全体に対する割合として考えられる部分)
- (b) 文脈: 「海洋におけるプラスチック廃棄物の()は急速に増大している。」
- 解説: 全体の中での「比率、割合」を意味する proportion が合致する。

- ア. connection(接続、関係)
- イ. fragment(破片、断片)
- エ. supplement(補充、付録)

29. 解答: ウ (resident)

- (a) 定義: "a person who lives somewhere on a long-term basis" (ある場所に長期的に住んでいる人)
- (b) 文脈: 「ソフィアは30年以上、神戸の()である。」
- 解説: 居住者、住民を意味する resident が正解である。
- ア. correspondent(通信員、特派員)
- イ. participant(参加者)
- エ. respondent(回答者)

大門6

[A] いったいどうして彼は私と口をきいてくれないのだろうか。

完成文: Why is it he will not speak a word to me?

(並び順: イ ウ ア カ エ オ)

・ポイント: 「いったいどうして～なのか」という強調のニュアンスを出すために、Why is it (that) ...? という構文を用いる。ここでは that が省略されている。

・文法構造: "speak a word to (人)" で「(人)と一言も口をきかない」という意味になる。否定の will not(～しようとしてない)を伴い、拒絶の意を表現している。

[B] 彼女がお箸を上手に使えるようになるまでには、かなりの練習が必要だった。

完成文: It took her a lot of practice before she was finally able to use chopsticks skillfully.

(並び順: エ カ ウ ア イ オ)

・ポイント: It takes (人) (時間・労力) before ... (人が～するのに…を必要とする)という構文を用いる。

・文法構造: 文頭の It は形式主語、took は「(時間や労力が)かかる」を意味する動詞である。練習(a lot of practice)が必要だった対象として her を置き、その後に接続詞 before を繋げる。

[C] 足元には見渡す限り海が広がっていた。

完成文: Below us stretched the sea as far as our eyes could see.

(並び順: カ オ ア ウ エ イ)

・ポイント: 「～する限り(範囲)」を意味する as far as ... を用いる。特に「見渡す限り」は as far as one's eyes can see という定型表現がある。

・文法構造: 文頭の Below us(私たちの下には)という副詞句が前に出たことで、主語(the sea)と動詞(stretched)が倒置(stretched the sea)している形と考えるのが自然である。

[D] いずれ彼に分かってしまうのだから、すべて白状した方がよい。

完成文: It would be better to confess it all because he will eventually find out.

(並び順: イ ウ カ エ オ ア)

・ポイント: It would be better to ... (～したほうがよいだろう)という控えめな提案の表現を用いる。

・文法構造: 形式主語の It を用いた構文である。to confess(白状すること)が真主語にあたる。confess it all で「それをすべて白状する」という意味を形成する。

大門7

第1段落

宇宙に関する本、映画、テレビ番組は数えきれないほど存在する。人々は長い間、他の惑星に生命が存在するのかという疑問を抱いてきた。同時に、科学者たちはいつの日か人間が月や他の場所で暮らすことになるのではないかと考えてきた。この驚くべき可能性を現実のものにするための計画が、現在進行中である。

第2段落

我々はすでに、月への短期間の旅を数回行っている。アメリカのアポロ宇宙計画の一環として、1969年から1972年の間に6回の有人月面着陸が行われた。最も長い月面滞在は、それぞれ約3日間であった。宇宙飛行士たちは一時的な基地を設置し、実験を行った。最後の3回の訪問では、彼らはバッテリー駆動のLRV(月面車)を使用した。その車のおかげで、宇宙飛行士たちは着陸地点の周辺を何キロも走行することができた。

第3段落

宇宙への旅のほとんどは、地球のより近くで行われる傾向にある。2000年以来、人々は国際宇宙ステーション(ISS)に居住している。これはアメリカ、欧州宇宙機関、日本、カナダ、ロシアの共同プロジェクトである。そこに滞在する宇宙飛行士たちは、定期的に「船外活動(スペースウォーク)」を行い、機器の設置、修理、そして科学的・医学的実験を実施している。

第4段落

宇宙で暮らすことに関する知識がこれほど深まった今、我々はどこに植民地(コロニー)を建設すべきだろうか。地球からの近さゆえに、月と火星が最も有力な場所である。実際、アメリカの宇宙機関であるNASAは、火星に植民地を建設する長期計画を持っている。また、中国の宇宙機関も月へ人を送り、そこに植民地を建設するという長期目標を立てている。

第5段落

しかし、宇宙植民地が可能になるまでには、依然として多くの課題に直面している。第一に、必要な機材を運ぶためのより安価な方法を考案する必要がある。また、水源の近くに植民地の場所を見つける必要がある。飲料、洗浄、その他の用途のために、大量の水が必要になるからだ。さらに、料理や暖房、そして地球への帰還の旅のために、植民地で燃料を生産する方法を見つける必要がある。

第6段落

これらの課題はあるものの、宇宙を旅し、そこで暮らすことは我々の運命だと信じる人々も多い。一方で、飢餓、病気、気候変動など、地球上で対処すべきより重要な問題があると考えている人々もいる。最も楽観的な人々は、技術や医学の進歩によって、これらすべての課題に同時に立ち向かうことができると感じている。実際、50年以内には、我々の多くが別の惑星で暮らし、今とは全く異なる視点から地球を振り返っているかもしれない。

問1

- ・ア. Media such as books, movies and television has rarely focused on life in outer space.
- ・(本、映画、テレビなどのメディアが宇宙での生活に焦点を当てるることはめったにない。)
- ・不適切: 本文冒頭に「countless(数えきれないほどある)」とあるため矛盾する。
- ・イ. Plans of humans ever living in space have been abandoned for good.
- ・(人類が宇宙で暮らす計画は永久に断念された。)
- ・不適切: 本文最後に「Plans are now in motion(計画は現在進行中である)」とあるため矛盾する。
- ・ウ. Scientists have never thought about the possibility of humans living on other planets.
- ・(科学者たちは他の惑星で人間が暮らす可能性について考えたことがない。)
- ・不適切: 本文に「scientists have wondered if humans might live on the moon or elsewhere someday(科学者たちは……考えてきた)」とあるため矛盾する。
- ・エ. The prospect of discovering life outside Earth continues to capture the imagination of many people.
- ・(地球の外で生命を発見するという見通しは、多くの人々の想像力をかき立て続けている。)
- ・適切: 第1段落全体の趣旨(人々が長年疑問に思い、本や映画の題材になり続けていること)と合致する。

正解:エ

問2: 第2段落の内容に合うもの

- ・ア: LRV(月面車)は「最後の3回の訪問(last three visits)」で使用されたとあるため、「すべての訪問(each and every visit)」は誤り。
- ・イ: 「最長の滞在が約3日間(lasted about three days each)」とある。合計(total)が3日間ではない。
- ・ウ: 正解。本文に「6回の有人月面着陸(six manned moon landings)」とあり、これは「5回より多い(more than five times)」に該当する。
- ・エ: 基地は「一時的なもの(temporary bases)」とされており、長期使用(long-term use)は誤り。

問3: 第3段落の内容に合わないもの

- ・ア: アメリカ、欧州、日本、カナダ、ロシアが関わっており、3ヶ国より多い。

- ・イ: 2000年以来、ISSで人々が暮らし始めている。
- ・ウ: 正解。ISSは「共同プロジェクト(joint project)」であり、アメリカ「専用(exclusively)」ではない。
- ・エ: 船外活動(space walks)を行って様々な任務(install equipment等)を遂行している。

問4: 下線部(41)「月と火星が最も可能性の高い場所である」の内容

- ・ア: 地球との類似性ではなく「近さ(closeness)」が理由である。
- ・イ: 「遠すぎるから候補になり得ない」は本文と正反対の内容。
- ・ウ: 「最も可能性が低い(least likely)」は正反対。
- ・エ: 正解。月と火星は植民地を建設するのに「非常に適した場所(very suitable locations)」に見える、という内容が合致する。

問5: 第5段落の内容に合わないもの

- ・ア: より安価な輸送方法が必要だと言及されており、現在はコストが高いことが示唆されている。
- ・イ: 水源の近くに場所を見つける必要がある。
- ・ウ: 正解。本文では水や燃料の確保が大きな課題として挙げられており、「資源の有無は問題ではない(not at issue)」という記述は誤り。
- ・エ: 生活には水も燃料も必要である。

問6: 第6段落の内容に合うもの

- ・ア: 地球上には飢餓や病気などの「対処すべき重要な問題がある」と述べられている。
- ・イ: 「50年以内には暮らしているかもしれない(may be living)」であり、確実(certain)ではない。
- ・ウ: 正解。「技術や医学の進歩(improvements in technology and medicine)が、すべての課題(地球上の問題を含む)への対処を可能にする」という楽観派の意見と一致する。
- ・エ: 宇宙探査を運命と考える人もいれば、地球の問題を優先すべきと考える人もおり、総意(general consensus)には至っていない。

問7:本文の内容に合わないもの(二つ選択)

- ・ウ:正解。本文に「全6回のうち最後の3回でLRVを使用した」とある。つまり4回目からであり、「3回目の着陸になってはじめて(not until their third landing)」使用できたとするのは誤り。
- ・キ:正解。地球の問題を優先すべきと考える人もいれば、同時に解決できると考える人もおり、「全員が同意している(All agree)」わけではない。
- ・(ア、イ、エ、オ、カは、それぞれ第1段落～第5段落の内容と一致している。)